

2001年1月25日

報道関係各位

ノバルティス ファーマ株式会社
ノバルティス地域医療賞委員会

第8回ノバルティス地域医療賞受賞者決定

昨年12月14日に行われましたノバルティス地域医療賞委員会におきまして、第8回ノバルティス地域医療賞の受賞者5名が下記のとおり決定しました。受賞者には、1月25日東京のホテルオークラにおいて行われた贈呈式で、表彰状と記念楯、副賞として100万円が贈呈されました。

この賞は、住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上のために著しく貢献された、日本医師会会員の方を顕彰することを目的に、1993年に設立されたものです。

記

<第8回受賞者>五十音順・敬称略

地域	受賞者	年齢	性別	功績タイトル
高知県室戸市	しまだ つくる 島田 作	70歳	男性	医療過疎地域での手術を中心とした医療活動と警察への協力
徳島県阿南市	なかやま としたか 中山 壽孝	74歳	男性	花粉症対策と幼児から生徒までの一貫検診システム構築
沖縄県那覇市	ながた きしゅん 長田 紀春	80歳	男性	戦後沖縄での小児疾病治療と保健衛生や救急体制に尽力
神奈川県横浜市	ふくしま こうき 福島 弘毅	63歳	男性	在宅医療・福祉への貢献と障害者へのボランティア活動
長崎県長崎市	むた ひろを 牟田 博夫	62歳	男性	地域の救急医療体制の構築と在宅介護の充実

以上

- 添付資料： 第8回受賞者の略歴と功績
ノバルティス地域医療賞の経緯
ノバルティス地域医療賞の規定
ノバルティス地域医療賞委員会委員
第1回～7回受賞者一覧

お問い合わせ先：

ノバルティス ファーマ株式会社
広報グループ・喜多 英人
TEL: 03-3797-8027 / FAX: 03-3797-4367

しまだ つくる

島田 作 (70歳)

(昭和31年 東京慈恵会医科大学卒業 高知県医師会)

[功績]

医療過疎地域のため、診療、往診は年中無休、医院玄関は24時間開けたまま、いつでも対応し、全科の患者さんの診療に従事した。救急のため、急性虫垂炎腹膜炎の手術や旋盤工の眼球結膜異物除去手術、さらには遠洋漁業操業中での病気、けが発生による無線での指導、対応など外科を中心に地域住民に貢献した。また交通事故やけが人など、緊急を要する治療にあたりつつ、その中であって、医療への理解を深めるために住民への医療の啓発、公衆衛生向上にも努めた。また室戸岬の険しい山奥での自殺未遂者の救命など、警察協力医としても活躍し、さらに、警察職員の法医学知識向上のため、現場では署員の知識向上にも努め貢献した。

[現職]

島田医院院長、高知県警察協力医、高知県警察協力医会監事、室戸市福祉事務所嘱託医、室戸市国民健康保険運営協議会委員、室戸市社会福祉協議会理事、学校医(室戸市内保育園、小学校、中学校)

なかやま としたか

中山 壽孝 (74歳)

(昭和28年 徳島医科大学卒業 徳島県医師会)

[功績]

昭和53年スギ花粉症多発を体験し、花粉症予防の第一として抗原からの回避が重要であることから、花粉飛散量を測定し、県下に情報を提供することで予防に貢献している。昭和60年からは徳島大学と三好病院と協力、さらに平成9年には県健康増進課にスギ花粉数測定方法を教示、8保健所でも測定するなど、データの精度を高めている。患者調査は9医療機関から報告を得て、情報提供の質向上にも努めている。一方、学校保健医活動は毎年8月に総会を開催し研修会も実施中。校区ごとの発表を行うなど、校医としてリーダーシップを発揮し、児童、生徒が活力溢れる生活が送れるように活動。また平成9年からは幼稚園・保育園を対象に園医会を設立し、幼児から生徒に至る一貫した健康維持、増進に貢献している。

[現職]

中山耳鼻咽喉科院長、阿南市学校保健会会長、阿南市医師会議長、学校医(徳島県内保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・養護学校)

ながた きしゅん

長田 紀春（80歳）

（昭和17年 千葉医科大学付属医学専門部卒業 沖縄県医師会）

〔功績〕

終戦後間もない昭和21年、石川地区病院や宜野座地区病院（現県立中部病院）に小児科医として勤務以来、54年余の長期にわたり、小児医療・保健に携わり、沖縄の戦中戦後の混乱した厳しい時代に、地域医療に貢献した。特に感染症を始めとする小児疾病治療に精力を注いだ。感染症予防の立場から集団接種への協力はもとより、個別接種にも応じ、併せて学校保健活動、乳児検診、さらには育児健康知識の普及、学童健康管理に尽力し、小児医療と保健に貢献した。救急の面では那覇市に小児科が少ない状況にあって、患者の要望に応じて夜間救急にあたり、住民の信頼も厚い。那覇市医師会の夜間救急当直制度にも積極的に参加し、運営に協力するなど救急救命にも尽力した。

〔現職〕

長田小児科医院院長

ふくしま こうき

福島 弘毅（63歳）

（昭和38年 順天堂大学医学部卒業 神奈川県医師会）

〔功績〕

横浜市港北区医師会への「往診医紹介システム」「在宅医療に関する病診連携システム」の導入・実施に中心的な役割を果たした。また自らプライマリ・ケア医として、プライマリ・ケア学会第一回認定医を修得後、横浜市プライマリ・ケア研究会代表幹事として在宅医療に取り組み、デイケア、痴呆性高齢者グループホーム開設を行った。昭和55年には地域福祉を考えるボランティアの会「和風会」を設立し、入浴サービス補助金支給や講演会・シンポジウムなども開催。さらに、地域ケアの人々との創作劇発表や障害者の運動会にボランティア医師として15年間参加し感謝されている。現在は行政の委託でグループホーム倫理綱領、ケアの評価基準策定などケアサービスの質確保に向けたモデル事業を実施中。

〔現職〕

医療法人福医会福島外科クリニック院長、全国痴呆性高齢者グループホーム連絡協議会代表理事、聖マリアンナ医科大学総合診療医学非常勤講師、日本プライマリ・ケア学会理事、厚生省「身体拘束ゼロ作戦推進会議」委員

む た ひろを
牟田 博夫 (62歳)

(昭和37年 長崎大学医学部卒業 長崎県医師会)

[功績]

平成元年、長崎市医師会平日準夜急患診療所を内科、外科、小児科で設立した。それまで休日みの急患対応であったが、平日一次救急体制を確立した。平成10年には小児科平日深夜診療を実現し、救急救命を通して地域医療に身を捧げている。在宅医療の面では訪問看護ステーション設立、在宅介護支援センター「医師会」受託、ホームヘルパーステーションの設立に努め、平成8年には3部門を統合し、効率化にも努めた。また高齢者介護サービス体制整備事業にも参加し介護保険実施に向けスムーズな導入に貢献した。さらに、2、3級ヘルパー養成事業や在宅ケア研究会、介護保険知識講習会など一般市民対象への啓発、教育にも努め、それらの貴重な体験を学会、医師会で報告し、その資料が活用されている。

[現職]

牟田外科医院院長、長崎市医師会会長、日本医師会代議員、長崎市学校保健会会長、長崎市介護認定審査会会長、その他長崎県医師会や長崎市の各種委員会委員長など

ノバルティス地域医療賞の経緯

1993年、当時の日本チバガイギー株式会社は、日本医師会の協力を得て、Ciba 地域医療賞委員会（現：ノバルティス地域医療賞委員会）を設立し、地域医療に貢献されている日本医師会会員を顕彰する制度が発足いたしました。

この制度は、住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上のために著しく貢献された医師会会員の方を顕彰するもので、名称は「Ciba 地域医療賞」とされました。

1994年に第1回の贈呈式を開催し、その後、毎年1回、5名ずつの先生方が受賞され、本年で40名の先生方に贈呈されることとなります。

なお、1997年4月に日本チバガイギー株式会社とサンド薬品株式会社が統合し、ノバルティス ファーマ株式会社となりましたので、日本医師会のご理解のもと「ノバルティス地域医療賞」と名称を改めました。

本賞の運営および受賞者の選考については、別紙のとおり、日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表者で構成されるノバルティス地域医療賞委員会が行います。

本賞の概要につきましては、別紙の「ノバルティス地域医療賞」の規定をご参照ください。

「ノバルティス地域医療賞」の規定

- < 目的 > 全国各地で住民に密着して医療活動に従事し、優れた功績をあげ、地域住民の保健衛生の向上に著しく貢献された、日本医師会の方を表彰する。
- < 主催 > ノバルティス地域医療賞委員会
- < 後援 > 社団法人 日本医師会
- < 表彰 > 日本医師会長及び各都道府県医師会長から推薦された応募者を「ノバルティス地域医療賞委員会」（日本医師会の代表、学識経験者、ノバルティス ファーマ株式会社の代表で構成）にて受賞者を選考し、毎年一回表彰する。
受賞者には賞状と記念盾及び副賞 100 万円を贈呈する。
- < 応募要領 > (1) 対象者
日本国内を主たる活動地とする日本医師会員とする。
(グループ活動は除く)
- (2) 推薦
原則として、1 推薦者から 1 名とする。
- (3) 応募方法
推薦者は所定の用紙にて推薦し、毎年 10 月末にノバルティス地域医療賞委員会事務局に提出する。
- (4) 事務局
「ノバルティス地域医療賞委員会事務局」

〒106 - 8618

東京都港区西麻布4丁目17番30号

ノバルティス ファーマ株式会社

渉外部内

電話：03 - 3797 - 8519

FAX：03 - 3797 - 8261

ノバルティス地域医療賞委員会委員

学識経験者（1名）

阿部 正和 学校法人 慈恵大学 顧問
東京慈恵会医科大学 名誉教授

社団法人 日本医師会（5名）

坪井 栄孝 会長（委員長）

小泉 明 副会長

石川 高明 副会長

山田 統正 常任理事

高瀬 佳久 常任理事（オブザーバー）

ノバルティス ファーマ株式会社（1名）

大橋 勇郎 専務取締役

ノバルティス地域医療賞 これまでの受賞者

(五十音順・敬称略)

第 1 回	第 5 回
神奈川県 小川 武満 静岡県 北村 廉作 宮崎県 清永 恕 大分県 杉田 肇 大阪府 橋本 博	宮城県 斎藤 一夫 群馬県 角田 勤 静岡県 三輪 淳 神奈川県 山口 肇久 岐阜県 渡辺 茂樹
第 2 回	第 6 回
東京都 塚部 祥生 島根県 花田 カズ 京都府 原 治 宮城県 堀田 廣行 茨城県 室生 勝	香川県 浮田 春雄 宮城県 大井 康 福岡県 清沢 博 沖縄県 金城 和男 鳥取県 齋藤 五彦
第 3 回	第 7 回
群馬県 織田 敏郎 岐阜県 黒岩 翠 岡山県 福島 功 愛媛県 藤原 寿則 大阪府 保坂 智子	佐賀県 内藤 光二 愛媛県 奈良 邦夫 東京都 萩原 謙二 広島県 平田 敏夫 愛知県 森 澄
第 4 回	
京都府 伊藤 盛夫 宮城県 庄司 眞 埼玉県 鈴木 邦明 東京都 徳光 裕子 鹿児島県 牧角 仙丞	